

第1回 地域公共交通会議 議事録

日時：平成23年11月16日（水）10:00～11:40

場所：中央区役所 8階 大会議室

I. 議事次第

1. 開会
2. 挨拶
3. 構成員の紹介
4. 議事
 - (1) 会議の趣旨と構成について
 - (2) 中央区総合交通計画・総合交通戦略について
 - (3) 江戸バスについて
 - ①これまでの検討経緯
 - ②江戸バスの利用実態
 - ③江戸バスの課題と今後の検討内容
 - (4) 今後のスケジュールについて
 - (5) その他
5. 閉会

II. 出席者

次頁の出席者名簿 参照

III. 配付資料

- 第1回中央区地域公共交通会議 次第
中央区地域公共交通会議 設置要綱
中央区地域公共交通会議 設置要綱（新旧対照表）
中央区地域公共交通会議 構成員名簿
資料1 中央区地域公共交通会議及び交通戦略部会について
資料2 中央区総合交通計画・総合交通戦略について
資料3-1 江戸バスに関するこれまでの検討経緯
資料3-2 江戸バス利用者実態
資料3-3 江戸バスの抱える課題と今後の検討内容
参考資料 江戸バス利用者アンケート調査 調査票
資料4 今後のスケジュール

<出席者名簿>

役職名	氏名	備考
国立大学法人東京海洋大学副学長	苦瀬 博仁	
国立大学法人東京大学准教授	大森 宣暁	
国土交通省関東運輸局東京運輸支局 首席運輸企画専門官	小矢島 応行	代理出席： 運輸企画専門官 池田 史子
国土交通省東京国道事務所交通対策課長	三澤 伸吾	
東京都建設局第一建設事務所管理課長	根津 忠士	欠席
警視庁交通部交通規制課 交通技術担当管理官	椎名 康雄	
警視庁中央警察署交通課長	岡部 光治	
警視庁久松警察署交通課長	成井 正司	
警視庁築地警察署交通課長	櫻井 文博	
警視庁月島警察署交通課長	三浦 節子	
東京都交通局自動車部計画課 事業改善担当課長	新山 富弥雄	代理出席： 路線調整担当係長 若田 瑞穂
日立自動車交通株式会社取締役統括部長	久保田 真光	代理出席： 営業課長 運行管理者 横溝 明彦
一般社団法人東京バス協会 乗合業務担当課長	若林 淳	
東京都交通運輸産業労働組合協議会 バス部会事務長（東京交通労働組合自動車部 長）	福田 智	
京橋地域町会連合会会長	山田 光男	代理出席： 築地六丁目町会会長 小林 高光
日本橋地域町会連合会会長	柴田 亨	欠席
月島地域町会連合会会長	（未 定）	欠席
中央区商店街連合会会長	重盛 永造	代理出席： 人形町商店街協同組合副理事長 柴川 賢
中央区工業団体連合会会長	水野 雅生	欠席
中央区観光協会会長	古屋 勝彦	代理出席： ㈱松屋 総務部総務課兼広報課兼ＩＲ室 セクションマネージャー 白石 晴久
企画部長	斎藤 裕文	
総務部長	島田 勝敏	
区民部長	齋藤 弘	
福祉保健部長	平林 治樹	
都市整備部長	岸田 里佳子	
教育委員会事務局次長	新治 満	
環境土木部長	宮本 恭介	

IV. 議事

1. 挨拶

中央区環境土木部 宮本部長

2. 構成員の紹介

3. 議事

(1) 会議の趣旨と構成について

- 地域公共交通会議の開催趣旨と部会の構成について説明を行い、了解をいただいた。

(2) 中央区総合交通計画・総合交通戦略について

- 資料 2 の 5 ページの公共交通不便地域の円は、小さい円が半径 100m、大きい円が半径 200m という理解でよいか。一般的に、半径 100m、200m で設定するものか。(学識経験者(会長))
⇒半径 300m や 400m が一般的であるが、高齢者や子育て世代も想定して少し小さい範囲で示した。また、地下鉄は駅によって深さが違うため、一階低くなるごとに、50m 駅勢圏を縮小するといった考えで設定している。そのため、一般的なものより小さくなっている。(事務局)
- その趣旨はわかるが、誤解のないようにする必要がある。例え 300m としても、公共交通不便地域があるのではないか。高齢者の方のことを考え 200m と設定すると、資料に示している範囲だが、半径 300m、400m という一般的な場合でも、不便な所があるという理解でよいか。(会長)
⇒300m、400m としても、隅田川沿いなどの晴海地域は全く駅がないため、晴海や豊海等は公共交通不便地域となる。(事務局)
- 資料 2 の 6 ページで、平成 17 年の道路交通センサスのデータを使っているが、平成 22 年の調査結果が国土交通省のホームページ上で公表されているので、最新のデータを使いたい。(警視庁交通部)
⇒部会の資料は最新データで対応する。(事務局)

(3) 江戸バスについて

- 2 点ほど質問させてほしい。1 つ目は、夏の利用が多く冬が少ない理由はなぜかということ。
2 点目は、新しく江戸バスを運行してほしい地区として銀座周辺が多いが、それを希望している人の性別や年齢などの個人属性を教えてほしい。(学識経験者)
⇒1 つ目の夏の利用が多いことについては、暑いからではないかと思っている。実際にバスに乗っている方を見ると、1 駅か 2 駅くらいの短距離利用が非常に多い。夏になり暑くなると、500m くらいの距離でも 100 円だから乗ってしまおうという方が多いと感じている。
2 点目の銀座方面を希望されている方の属性は、年代では 30 代、60 代、70 代といった層が多い。特に 60 代の方が多く希望されている。(事務局)
⇒夏と冬で交通手段が異なるという可能性もあるし、銀座方面への希望が多いことも、現在、他の交通手段で行っているのか、そもそも来訪していないのかといったことを考慮しながら、

交通戦略部会の方で検討していきたい。(学識経験者)

- 資料 3-1 で、江戸バス導入の着眼点が 7 つあり、少なくとも 1~5 は、江戸バス導入の基本的な考え方と思うが、アンケートの分析と 5 つの着眼点は合っているのか。

例えば、着眼点 1 の公共施設へのアクセス性については、公共施設がどこにあり、江戸バスのルートのうち、どれくらい公共施設に接着しているかといった分析が必要ではないか。それと合わせて、アンケート結果を分析する必要があると思う。

資料 3-3 の課題は、アンケートの自由意見と区長への手紙の意見から整理されている。それは大切なことだが、資料 3-1 での着眼点と、資料 3-2 で示しているアンケート調査の分析と、資料 3-3 での江戸バスの課題の議論を繋げる必要がある。(会長)

⇒江戸バス導入の基本方針の達成度については、アンケートでも質問しており、資料 3-2 の 13 ページに結果を示しているが、今後、年代別、地域別での集計を行い、本来の目的に沿ったバスの運行であるか整理したい。(事務局)

- そうしていただきたい。例えば、着眼点 5 で来街者の利便性の向上と示されているが、これだけの資産を持っている中央区なので、来街者が増える仕組みがあってもいいと思う。神戸にもコミュニティバスがあり、案内があったので観光バス代わりに乗ってきたが、そういった取り組みがあってもいいと思う。(会長)

⇒江戸バスの基本方針に対応した課題整理については分析を進めたいと思う。また、基本方針を達成するための対応として、例えば観光については、ルートだけでなくソフト面の充実も大事と考えている。江戸バスマップでも、今も残る建築物等について示したものをつくっており、このような PR をすることによって、目標を達成することも考えたい。(環境土木部長)

- せっかく色々な調査をしているので、自由な意見だけを取り上げるのではなく、調査に基づいて客観的に整理した方が住民の方に納得していただけたと思う。(会長)

(4) 今後のスケジュールについて

- 第 2 回地域公共交通会議では、今回頂いた意見を踏まえて事務局で江戸バス運行の改正案を作成し、概ね 2 月下旬頃に新たな運行ルート等についての案を示したいと考えている。併せて、交通計画・交通戦略についても、案を作成して、第 2 回地域公共交通会議で審議いただきたい。(事務局)

以上